



DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

No 32 avril 1995 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

1995年度から 最高30万円の助成

MIEF 国際化推進事業助成金制度が発足

MIEF (財)三重県国際交流財団では、県内の民間レベルの国際交流団体が行う自主的、創造的な活動を発展・持続させるため、平成7年度から県の補助金を同財団を通じて国際交流団体連絡会議加盟の団体の事業に助成することになりました。

助成の対象となる事業は、

1. 外国人と地域住民の交流を進める事業
2. 在住外国人に対する支援をはかる事業
3. 国際交流にかかわる地域の担い手の育成をはかる事業
4. 地域住民の国際理解や、地域住民と外国人の相互理解を促す事業
5. 国際協力に関する事業

などとなっております、30万円を限度に活動費の1/2を助成することにしております。ただし営利、宗教、政治などの目的をもつ事業や、海外への渡航経費などは対象から除外されております。

おおいに活用しましょう！

三重日仏協会でもこの助成を積極的に活用したいと考えていますので、今後の活動について会員みなさまの思い切ったご提案をお待ちしております。審査がとおれば、60万円以上の「日仏交流事業」に、最高30万円の助成が受けられるということです。

1995年度・総会は7/9(日)『パリ祭』を兼ねて

詳細は改めて通知します

阪神大震災

CATASTROPHE MAUDITE

神戸日仏協会が被災 本会から見舞金

1月末、(財)日仏会館・白井副理事長より全国の日仏協会会長に宛て、神戸日仏協会の事務所が阪神大震災で被災した旨のお知らせがありました。三重日仏協会では、さっそく同事務局の津山和子氏宅にあててお見舞状と若干の見舞金を送りました。

これに対して津山さんより以下のような礼状が届いています。

(……) 事務所のありました三宮のビルは取壊しとなり、これからどのように活動をやっていけばよいかまだ判らない状態です。こんご再建されるとしても何もなくて、ほとんどゼロから初めて行かなければならないだろうと思います。そのときお見舞金を役立たせていただけることと、大変感謝しております。(……)

在仏の山口千佳さんよりの手紙

昨秋「ルウ・クラブ」の三重県招請をコーディネートしたフランス・ASIA (在GUJAN) の山口千佳 de Montaudouin 夫人から、事務局にあてて下記のような(一部)お手紙をいただきました。

三重日仏協会のメンバーの方々やご家族ご友人はご無事ででしょうか? 神戸の地震についてはフランスの人々も大変ショックを受けました。いろいろお手伝いを申し出た人も、なかなか日本側から要請がなく、やきもきしていました。自衛隊の行動が遅れたこと、政府の無策、神戸が地震への備えをほとんどしていなかったこと etc… たくさん番組で放送されていました。また日本人が大変おとなしく、整然とパニックにおちいることなく行動したこともレポートされていました。(……)

ドミニク・ドゥーセの店 阪神の被災地へパンを贈る

本会会員で、おいしいパンづくりでおなじみのフランス人ドミニク・ドゥーセさんは、阪神大震災の惨状を知って何かお役に立ちたいと、1月21日、前夜から店の職人さん総動員で焼きあげたブリオッシュ、食パン、クッキーなど約1万個を鈴鹿市を通じて被災地に送りました。

阪神大震災とフランスの救援

フランス政府は地震当日17日の朝(日本時間で夕刻)、内務省所属の「災害救助機動部隊」DICA: Détachement d'Intervention Catastrophes Aériomobile) の派遣を決め、ただちに日本政府に申し入れた。(……)



阪神大震災救助活動の心機に捜索犬ととも
に現地入りしたフランス災害救助隊
1月21日、神戸市灘区・王子陸上公園

DICAは日本政府から要請を受けた20日にパリを発ち、翌日神戸に入った。しかし残念ながら地震発生から4日間も経過していたこともあり、遺体3体を発見したにとどまり、生存者の救出はできずに24日帰国した。DICAの来援については日本のマスコミでも大きく取り上げられたが、あまり報道されなかったことを一つだけ記しておきたい。それは世界各地の災害現場に立ち会ってきたDICAの隊員たちが、今回の大惨事のなかで冷静さを保ち、勇気を持って復興に立ち上がった日本の被災者の姿を見て、大きな感銘を受けたことである。(……)

「フランス便り」3月号より

〈フランスの災害救助はヘリ活用・県単位で救助組織〉

DICAのクルジア広報官・談

「(……) 被災地入りしたわれわれの隊は医師4人、広報官2人、カメラマン1人を含めた60人と捜索犬4頭からなっていました。(……) 日本とフランスの救助システムで違うと思ったのは、日本が陸路を使うことに大きな比重を置いていることです。だから現地に救助隊がいくのに困難があります。フランスではヘリコプターがおおいに活用されています。(救助本部関係だけでヘリ23機、飛行機29機がある)

わが国では、全国95の県単位で救助組織をつくっています。知事を責任者に、1. 医療 2. 交通 3. 消防隊 4. 警察の四つのセクションがあり、災害時には相互に連絡を取り合いながら活動します。(……) 情報は県からパリの災害救助本部(常時24時間体制)へ特別電話ですぐに届きます。救助本部には首相、大統領と直通の非常電話があり、指示が受けられます。

2月9日「赤旗」より

F = 6, E = 8

3月の思い出話を書かせていただくことにする。1976年3月、小さい section の研究発表会が Toulouse で開催された。研究所の仲間はみな空路旅行であったが、私は早春の田園風景を見たかったので列車で出かけた。その年の春は温かく、Boule - Miche あたりの Café では2月中旬の日曜日には早くもテラスに卓を並べたほどであった。果せるかな車窓から見る大自然はまさに百花繚乱、あっという間に所要の6時間が過ぎて目的地に着いてしまった。

学会会長は Toulouse 大学の B 博士、座長は、この genre で今を時めく C 博士だった。座長は「日本からは、国際学会のようなお祭りの行事には大挙しての参加があるが、このような地道な研究会での発表は初めてだ」と人をおだてた。外国勢はスイス、オランダ、イタリーなどだったと記憶する。

私たちの communication libre というのは8分間が発表の持ち時間だったが、講演はどれも少しずつ長くなり、かつ討論も活発でプログラム進行は遅れがちになった。会長も座長もしきりに時刻遅延を告げ、発表時間厳守を要請した。

この頃から会長はしばしば席を立って姿を消したが、何度目かに会場に現れるや直ちに黒板に「F = 6, E = 8」と大書した。私はてっきり「外国人 Etrangers は所定通り8分でよいが、フランス人 Français はこの際6分でしゃべれ」と言っているのだと思った。

会がはねてから尋ねると見当外れも良いところ、実は、その日はフットボールの欧州選手権試合か何かでフランス対スペイン戦だったのだ。あの時点で「フランス France 6点 スペイン Espagne が8点でリードしている」ことを知らせる会長のイキなはからいだったというお話。 (ours)

せいぜいご利用ください 事務局保管の書籍・刊行物など(Ⅱ)

一昨年、本会顧問の小堀巖先生より頂戴したフランス関連の書籍のほか、毎月フランス大使館などから送られてくる定期刊行物など、多数を事務局で保管しております。貸出、コピーなどの便宜を計りますので(実費ご負担で)、興味をおもちの方は事務局・井土まで申し込んでください。

主なもののリストを紹介します。

1. 定期刊行物

- * 〈フランス便り〉 在日フランス大使館広報部
月刊 25頁 写真入り バックナンバーあり
- * 『パリの新聞』OVNI アドムーン編集室 月2回刊 12頁 毎回50部受領
フランスの文化・生活情報紙(フランス語のページもあり)
- * NOUVELLES (財)日仏会館 4頁 日仏会館・日仏協会通信

2. フランス語書籍等

- * 〈Paris de sa naissance à nos jours〉 P. COURTHION
パリの歴史(イラスト、写真入り) 280頁
- * 〈La croissance de Paris〉 パリの誕生と発展を古い絵地図や写真でたどる
- * La France aérienne (120 diapositives en couleurs)
フランス各地の航空写真 カラースライド 120枚
- * Atlas Historique LAROUSSE
ラルース世界歴史地図 324頁
- * 〈Les musées de France〉 G. POISSON
フランスの博物館について クセジュ文庫 127頁
(以下次号)

シャルル・ド・ゴール空港にTGV 駅オープン

シャルル・ド・ゴール空港にフランス新幹線TGV駅が完成し、1994年11月13日から営業運転を始めた。これにより、パリにわざわざ出なくても地方都市への直接アクセスが可能になった。たとえば、北線のリール方面と南東線のリヨン、マルセイユ方面が空港と直結し、また、アトランティック線との接続は96年春になる予定である。

同時に、高速郊外地下鉄RERのB線も空港に乗り入れ、パリ中心部へのアクセスも一段と便利になった。北駅と空港駅を午前4時56分から夜中の0時15分まで、129本のRERが結んでいる。

TGVおよびRERの駅はエール・フランス航空専用の第2ターミナル寄りに完成。第2ターミナル利用の場合はそのまま動く歩道で駅へ、第1ターミナルを利用する場合は、無料のシャトル・バスを利用できる。

また、パリとロンドンを結ぶ一般旅客対象のTGVユーロスターは、1994年の11月14日から順調に運行を続けている。現在は1日1~2本だが、1995年中にパリ・ロンドン間は1日20本、ロンドン・ブリュッセル間は同15本に増発される予定である。車輛用列車・シャトルも昨年の12月22日から運行が開始された。